

## 日本思想の歴史的総合的研究

大河内了義 門 脇 健  
友田孝興 池上哲司  
延塚知道

### まえがき

すでに1994年度末の「研究概要」に記したように、古代ギリシャに端を発してヨーロッパ世界に展開し、体系化され、現代においては更にその「脱構築」さえなされつつある「哲学」なるものが、いかなるものであったか、またその「哲学」に対応する概念なり実体なりが東洋ないし日本に存在するののかについて、様々な見地から関係文献を渉猟し討議を重ねた結果、東洋ないし日本にはかかる概念もなく、また概念化へのアプローチもほとんどなされていないことが判明した。つまり、一般に東洋ないし日本の思想を形成してきたとされる神道・儒教・仏教は、それぞれ個々の流派ないし宗派別の個々研究はなされているものの、それらを歴史的に展開するものとして全体的・統一的に把握する研究結果の跡はほとんど皆無であることが判明した。

このことは歴史意識そのものが、あることがらがある点で始まり、連続して展開し、ある目的なり終着点なりに向かって全体として線的に進むとする目的論的歴史意識が、つまり「始めにロゴスありき」そして「最後の審判」というキリスト教的思考が、「神は死んだ」現代においては「世俗化されているものの、唯一神教的思考の粹組みから生じる（カール・レーヴィット『世界史の救済のできごと』）とされるキリスト教ヨーロッパにおいてのみ生じ得た「特異」な現象であると考えられることもできるかもしれない。

したがって当研究班の課題は、

- (1)今一度ヨーロッパ産の「哲学」という名と概念を検討しなおすこと
- (2)日本の思想を総合的・歴史的に把握するためにはどのようなパラダイムが必要とされるかを検討すること
- (3)そのパラダイムを適応した場合に日本の思想はいかなる相を呈するかを確

## 認すること

という極めて困難な問題に逢着することとなった。

右のような問題意識をもって、1995年度には次のような計画を立て、学内・学外の研究者がそれぞれの専門領域から報告を行い、それについて毎回、研究者以外にも数名加わって討議を重ねた。

1995年6月2日 神戸大学 水野和久氏

「現代における哲学の脱構築—フランスを中心に—」

6月13日 京都大学 富田恭彦氏

「古典的イギリス経験論と現代アメリカ哲学」

7月20日 大谷大学 須藤訓任・門脇健

「近世における〈哲学〉という名前と概念—デカルトからヘーゲルまで—」

10月6日 神戸市外国語大学 小浜善信氏

「中世における〈哲学〉という名前と概念」

11月7日 京都大学 辻本雅史氏「哲学（思想）としての儒教」

12月22日 大谷大学 延塚知道「哲学（思想）としての真宗」

宮下晴輝「哲学（思想）としての仏教」

1996年1月11日 大谷大学 堀尾 孟「明治以降の日本の哲学」

2月28・29日 まとめ

今回はそれらの諸報告のうち学外の研究者によるもののみをここに発表し、他の部分は別の機会を待って発表することにした。

困難な課題を解明すべく2年間にわたって努力を重ねてきたが、その結果は必ずしも十全なものとは言い難く、今後更に研究努力を重ねる所存である。